

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|---|
| 事業所番号 | 4070501061 |
| 法人名 | 有限会社 トータル・ケア・サービス田原 |
| 事業所名 | グループホームあしたば |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県北九州市小倉南区新道寺396 (電 話) 093-451-3002 |

| | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------|
| 評価機関名 | SEO (株)福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F | | |
| 訪問調査日 | 平成 19年 8月 8日 | 評価確定日 | 平成 19年 9月 28日 |

【情報提供票より】(平成 19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|---------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 14年 4月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 11 人 | 常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 | 7.40人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------------------|-------|
| 建物形態 | 単独 | 新築 |
| 建物構造 | 鉄骨軸組&パネル併用耐火構造 造り | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 47,400 円 | その他の経費(月額) | 20,400 円 | |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | | |
| 食材料費 | 朝食 | 340 円 | 昼食 | 615 円 |
| | 夕食 | 615 円 | おやつ | 60 円 |
| | または1日当たり | | 1,630 円 | |

(4) 利用者の概要(平成 19年 7月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|------------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 4 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 80.56 歳 | 最低 | 67 歳 | 最高 | 86 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | (医)小林内科医院、そう歯科医院 |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表が地元出身であり、入居者・職員にも地元からの方が多く、入居者にとって馴染みの場所である保育園にお連れしたり、行きつけの理・美容室・百貨店にお連れしたり、入居前に習慣とされていた月命日のお寺参りを継続していただく等、地域に密着したホームならではのケアを行っている。ケアを手厚くすることともに、職員への負荷を軽減するために、基準以上の人員体制がとられており、また、ホームで初めての看取りをさせていただいた時は、まず職員一人ひとりに、自分ができること・対応が難しいことについて意見を聞き、ホームの方針を決めた後、再度、職員会議を開いて話し合う等、職員の意見を反映させたホーム運営が図られており、職員の異動は少ない。ホーム内に看護師資格を有する職員は少ないが、医療機関との連携のもと、入居者の健康管理を行っており、心身機能の維持のために、訪問マッサージやスポーツインストラクターによる体動レクも採り入れている。うどんや煮豆作りといった調理、座布団作り等の裁縫、畑仕事等、入居者は、得意なことを活かして、ホーム活動に参加されており、以前、趣味でされていたちぎり絵を、他入居者に教えてくださった方もおられるとのこと。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-----------|---|
| 重点項目 ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | ①服薬管理・緊急時対応・感染症対策といった医療面について、職員間で知識・技術に差があったため、内部研修を充実させ、レベル向上を図った。②入居者のベースの尊重や自立支援については、必要に応じて管理者からの指導という形もとりながら、職員同士で声かけしあって基本姿勢の徹底を図るとともに、介助の仕方・範囲が職員間で統一されるよう、情報の共有化を図った。 |
| 重点項目 ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 法人代表が、評価の意義を職員に話し、まず職員一人ひとりに自己評価を行ってもらい、その結果を取り纏めた「自己評価票」を再度職員に回覧し、追加・修正を加えた。 |
| 重点項目 ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | ①ホーム内行事に協力していただけるボランティア団体を探す方法として、「市民センターに相談したら?」と助言いただいたので、問合せをし情報を入手した。②「防災訓練の際は近隣に参加いただくよう声かけしては?」との意見に基づき、お知らせ・協力依頼をさせていただいた。③ホーム便りの内容について、プライバシーへの配慮、認知症・介護保険に関する情報やホームのケアの基本姿勢の掲載といった意見をいただいたので、それらを踏まえ、内容見直しのために一時中断していたホーム便りを、外部評価当月より再開する準備を進めている。 |
| 重点項目 ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) |
| | 月1回、入居者ごとに、担当職員が健康状態や暮らしぶりをまとめた手紙を郵送している。意見・苦情については、家族来訪時に「何かあったらいつでもおっしゃってください」と声かけするとともに、意見箱も設置しており、家族の意見の取り纏めの場として「家族会」も設置している。これまで、月1回の便りの内容について意見をいただいたことがあり、担当が変わった時にも対応が異なることがないように、話し合い・申し送りをしている。 |
| 重点項目 ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 以前より、地区の保育園・小中学校との交流、地区の夏祭りでの団扇の提供等、地域交流に積極的に取り組んでいたが、ホーム側の送迎により隣の校区の特別支援学級の生徒が来訪したり、近隣の方がホームの花壇の土作りをしてくださったり、近所の方に入居者が布草履作りを教えてもらい地区の文化祭に出展したり、公民館での地域のサークル活動の発表を見に行ったり、入居者と一緒に行内会費の集金に回るなど、範囲・内容ともに更に豊かになってきている。 |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|---|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 平成14年の開設時に、法人代表及び当時の管理者・職員と話し合いをして、4カ条からなる理念を作成した。当初から、4つ目に「地域との交流を深め、地域に溶け込んだグループホームを目指します」を盛り込んでいる。法人代表が地元出身であり、入居者・職員にも地元からの方が多く、地域に溶け込んだホーム運営が図られている。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念はホームの玄関・事務所に掲げており、会議や日々の現場で話されるケア内容自体が理念と一致しているため、職員には浸透している。以前和裁をされていた方で、途中で職員が少し誘導すればお出来る方には、一緒に材料を買いに行き、座布団を縫っていたが、縫うことが難しい方には着物をほどいていただいたり、書き物等が得意な方には算数や漢字のプリントをしていただく等、一人ひとりであった形で、理念の「能力を今以上に引き出し」を実践している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 以前より、地区の保育園・小中学校との交流、地区の夏祭りでの団扇の提供等、地域交流に積極的に取り組んでいたが、ホーム側の送迎により隣の校区の特別支援学級の生徒が来訪したり、近隣の方がホームの花壇の土作りをしてくださったり、近所の方に入居者が布草履作りを教えてもらい地区の文化祭に出展したり、公民館での地域のサークル活動の発表を見に行ったり、入居者と一緒に町内会費の集金に回るなど、範囲・内容ともに更に豊かになってきている。 | ○ | 地域施設や行事への訪問が“皆で行く”時が多いことや、散歩の折の会話が挨拶以上になかなか進まないことに、ホームとしては、更に取り組みの余地が残されていると感じているとのこと。入居者一人ひとりが地域の一員として、好きな場所に行き、好きなことをし、近隣の方と立ち話をするといった、地域の中での当たり前の暮らしができるよう努めていきたいとのこと、更なる充実が期待される。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 法人代表が、評価の意義を職員に話し、まず職員一人ひとりに自己評価を行ってもらい、その結果を取り纏めた「自己評価票」を再度職員に回覧し、追加・修正を加えたとのこと。管理者・職員は、自己評価を通して、取り組みの余地が残されている分野に気付かされたとのこと、法人代表にとっては、職員が力を入れたいと思っている点を把握する材料になったとのこと。「改善計画」は作成しなかったが、前回の外部評価での指摘については、改善の取り組みを行った。 | | |
| | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族代表、地域代表、包括支援センター職員に参加いただいている。積極的に意見をいただけるよう、いただいた意見に対してはすぐ行動し、その結果を必ず次回報告するようにしている。ホーム内行事に協力いただけるボランティアを探す手段や、地域にも配布するホーム便りの内容等、具体的な議題を設定しているためか、多くの意見・助言をいただけ、ホーム運営にすぐに反映させることができている。自己評価・外部評価の結果の報告はまだできていない。 | ○ | 評価結果を運営推進会議で報告するとともに、「入居者の参加」について、検討してみたい。入居者の状態・出席者の理解等により、「入居者の参加」の形も、事業所ごとに様々な形が考えられるが、入居者と地域の方の交流の場と位置づけるのも一つの可能性と思われる。会議を二部構成にし、入居者と一緒にお茶を飲みながら雑談していただく場を設定したり、入居者に得意なことや昔話を披露していただく機会を作る等、自身のホームに合う形の「入居者の参加」の方法を検討してみたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|----|---|---|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらっており、ホーム運営について疑問が生じた時は相談している。ホーム便りも市窓口を持参しているが、日常的・継続的に市と連携をとっているとは言いがたいとのこと。 | ○ | ホーム側から、「今後は、市担当者と随時交流できる機会を設けたい」との声が聞かれ、更なる取り組みを期待したい。 |
| 7 | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 制度に関する外部研修会に、一部の職員に参加してもらい、他の職員には資料を回覧した。制度に関するパンフレットはホームに備え付けており、必要と思われた方には、相談窓口や弁護士等の紹介を行っており、実際に成年後見制度を利用されている方が1名いらっしゃる。 | ○ | 家族の状況によっては、当該制度の説明すること自体にも、慎重な配慮が必要な場合があるであろうから、説明する時期・内容は個々に判断していく必要があると思われる。適切な時期に適切な内容で説明できるようにするためにも、ホーム内に、ある程度詳細に制度を知っている職員を確保することが良いと思われ、ホームでも、担当職員を設定したいと考えているとのことで、今後の取り組みが期待される。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族に近況を報告するという目的で作成していた「ホーム便り」であったが、地域にも配布することから、便りの目的が広がったことから、内容の見直しを行うため、現在、一時的に発行を中断している。月1回の担当職員からの手紙は、現在も続けており、現金出納帳も同封している。利用料は振り込みでなく持参いただくようにしているため、家族は最低月1回は来訪されており、その時、口頭での報告もしている。 | ○ | 「ホーム便り」は、外部評価の当月から再開の予定とのことで、既にほぼ記事はできているのを、外部評価当日に見せていただいた。運営推進会議でいただいた意見を反映させ、写真も個人情報保護に配慮したものになっており、高齢者の健康に関する記事や、ホームの日常の様子を伝える記事も盛り込まれ、近々の発行が楽しみである。 |
| 9 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 来訪時に「何かあったらいつでもおっしゃってください」と声かけしている。意見箱も設置しており、家族の意見の取り纏めの場として「家族会」も設置している。これまで、月1回の便りの内容について意見をいただいたことがあり、担当が変わった時にも対応が異なることがないよう、話し合い・申し送りをしている。 | ○ | ホームに直接言いにくいこともあるだろうとの配慮から、第三者窓口の設置を検討していたとのことで、既に近隣の方の協力をいただけることが決まっており、早々に立ち上げが出来そうとのこと。 |
| 10 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 定年退職や健康上の理由から若干の退職はあるが、職員の入れ替わりは少ない。ケアを手厚くすることとともに、職員への負荷を軽減するために、基準以上の人員体制をとり、調理専門のスタッフを確保している。職員のストレスへの配慮として、近隣の方に外部の相談窓口になっていただいております。親睦会も行っている。異動があった時は、新規職員が他職員と同じ対応ができるよう、管理者が1対1で指導し、入居者への影響を最小限にするよう努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 性別・年齢・宗教で採用対象から外すことはしておらず、実際、16歳の定時制高校に通う学生、70歳を過ぎられた方も採用している。着付けのできる職員には、花火大会の時に入居者の浴衣の着付けをしてもらったり、絵の得意な職員には、ホーム便りに4コマ漫画を書いてもらう等、職員の得意なことをホーム活動に活かしてもらっている。資格取得支援等、職員の自己実現、働きながらの社会参加も支援している。職員の家族が行事に参加することもよくあり、家族の理解の中で職員は仕事に従事している状況である。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|------|---|
| 12 | 20 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権に関する外部研修に、職員を派遣している。改めて「人権教育」というテーマで内部研修をすることはしていないが、会議やカンファレンスで、常に入居者の立場で考えるという形で入居者の人権を守ることが指導している。入居者の安全・他入居者とのトラブルを避けるという理由があるにせよ、職員の一方的な対応にならないよう、入居者に必ず同意を得てから行うようにする等、具体的な注意もされている。 | | |
| 13 | 21 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人代表は、サービスの質の向上のためには職員の研修が大切であることを意識し、積極的に取り組んでいる。県・市主催の研修会、事業者協会の研修等の外部研修の他、2～3カ月に1回程、内部研修を行っている。内部研修は、入居予定者が有する疾病の理解等、その時その時に応じてテーマを設定しており、現場で困っていることに即応できるという意味で有効なものになっているが、計画的に行っているとは言いがたい。 | ○ | その時の必要性に応じて、テーマを柔軟に組み替える余地も残しつつ、「緊急時対応」「個人情報保護」等の毎年繰り返し行いたい内容や、「感染症予防」等季節ごとのテーマについては、年間のスケジュールを立てて内部研修を行っていくとより良いと思われる。職員ごとに、1年の抱負や学びたいことを書いてもらい、受講した研修の記録を残し、1年振り返っての成果を見つめるようにすることも、職員の意欲づけ・段階を踏んでの育成に効果的と思われる。 |
| 14 | 22 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 「福岡県高齢者グループホーム協議会」に入っており、ブロック研修に参加している。地域の他事業所とは、職員の相互訪問の他、餅つきを合同で行う等の交流もしている。法人代表は、同業者との交流の意義を意識し、ネットワークを通じて関係を作った他県のグループホームに、職員を研修に派遣したりしている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 体験入居をしていただいている。グループホームという意味をご理解いただけない方には、入居前にされていた機能訓練をホームで継続することで、「療養の場」として納得いただいたこともある。それまでホームで経験していない疾病・症状をお持ちの方が入居される時は、体験入居の期間を延ばし、食事形態別に補助具の利用や介助の必要性の有無について検討を重ね、入居者・ホームともに安心してお迎えできる状態になってから入居いただいた。 | ○ | ホームとしては、充分馴染みの関係を作ってから入居いただきたいと考えているが、入居者の状況、入院先の医療機関や家族の都合等もあり、急いで入居いただかなければならないことも多く、苦慮しているとのこと。今後も、家族も含めた関係者との話し合いを密に行い、入居者にとって最適なタイミング・方法で入居いただくことに努めていきたいとのことで、今後の継続した取り組みを期待する。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 料理、野菜の作り方、掃除の仕方、謔等を教えていただいている。失敗して気落ちしている職員の肩を叩いて励ましてくださったり、少し体調を崩している職員に「早う、帰んなさい」と声をかけてくださる等、入居者が職員を支えてくださる場面もよくあるとのこと。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|---|---|------|---|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 以前より、入居者本位のケアが行えるよう、入居者の思いの把握に努めてきたが、今年から「センター方式」も導入し、家族の協力も得ながら情報収集を行い、新たな問いかけや物品に対する入居者の様子や表情変化を観察し、言葉に出せない思いを推察している。推察が職員のひとりよがりにならないよう、職員間で情報交換・話し合いを繰り返している。 | ○ | 様々な試みをしているが、現在も、思いを把握することが難しい方がおられ、ホームとしても継続して取り組んでいきたいとのこと。入居者が行きたい場所を言われた時は、叶えてさしあげたいという思い、及びそれをきっかけに更にその方に近づきたいという思いから、勤務調整も含めてホーム全体で実現に向けて取り組んでいるとのこと、更なる成果が期待される。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 「センター方式」を導入し、家族から情報をいただきながら、入居者本位の「介護計画」の作成に取り組んでいる。必要に応じて、かかりつけ医、認知症専門医等に相談もしている。問いかけをしても、希望を言われることがほとんどない入居者もおられ、遠慮もおりなのか、「おまかせします」と意見をあまり言われない家族も多く、入居者の思いを明確化して記載することが難しいこともあり、実際のケアは入居者本位に行われているものの、「介護計画」の課題・目標の表現に、職員の視点の方が強く表れているものも、若干、見受けられる。 | ○ | (外部評価項目No.18) 現在、少しずつ「センター方式」で情報収集を進めている段階であると思われる。これまでも、自ら要望を言われることが少ない方に対して、言動や表情の変化をキャッチし、好きな物や好まれる過ごし方を推察しているであろうと思われるので、今後も、入居者の言葉や観察した表情を書きとめ、背景にある「思い」の推察結果をアセスメントシート等に記載し、「介護計画」につなげていく取り組みを行って欲しい。 行動障害を表す言葉や専門用語を易しい言葉に置き直す等、表現面も含め、入居者・家族がご覧になられた時に前向きになれる入居者本位の計画の作成に取り組んで欲しい。目標やケア内容に、入居者の望みや好きなこと・過去の習慣を踏まえて、“いつ”“どこに”“どのくらい(時間・回数・距離等)”といったことを盛り込むと、モニタリングの時に、“目標が達成できたか”“ケア内容が計画通り行われたか”の評価が具体的に行え、次の目標設定・ケアの見直しが、より適切に行えるようになると思われる。 |
| 19 | 39 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎月、全入居者について、「介護計画」の検討を行っている。入居者・家族に状況変化があった時、また特に要望が挙がった時には、随時、見直しを行っている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療機関への入院が必要な状態になられた入居者がおられたが、家族の希望により、協力医療機関との連携を更に密にし、ホームで看取りをさせていただいた。入居者の心身機能の維持のために、訪問マッサージ、スポーツインストラクターによる体動レクを採り入れている。以前行かれていた百貨店への外出支援(同行)、自宅への外泊の際の家族の支援等もしている。 | ○ | ホームとして、インストラクターによるレクリエーションに、地域の方にご参加いただくことを検討しているとのこと。事業所の多機能性を、入居者の生活の拡充のみならず、地域への還元という形で活かしていく取り組みが期待される。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームとして協力医療機関を確保しているが、希望があれば、入居前からのかかりつけ医での受診を継続していただいている。協力医療機関以外への通院介助は家族にお願いしているが、受診結果を家族からお聞きし、ホーム側で情報を把握して医療機関との連携に努めている。 | ○ | ホームとして連携に努めてはいるものの、情報交換がスムーズに行えない時もあるとのこと。通院時に、ホーム側からの情報提供・質問の用紙を持参し、医師に返事を書いていただくという仕組みも試みたが、定着には至らなかったとのこと。今後も、連携強化に取り組んでいきたいとのこと。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|------|--|
| 22 | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホームとしては、医療処置が必要になられた場合は対応が難しいと考えているが、今回、家族の強い希望があり、初めてホームで看取りをさせていただいた。まず職員一人ひとりに、自分ができること・対応が難しいことについて意見を聞き、ホームの方針を決めた後、再度、職員会議を開いて話し合い、職員の意思統一を図った。その上で、協力医療機関に出向き、医師に特別の対応・体制の協力が得られることを確認し、家族の協力の確認もしてからお引き受けしたとのこと。 | ○ | 今後も、ホームとして医療資格者を確保するのではなく、協力医療機関との連携という形で入居者の健康維持を図っていききたいとのこと、ホームでの対応が難しい医療処置が必要な状態になられた場合は、入居継続が難しいこともあるとのこと。重度化された時の対応について、ホームの方針を明確にし、入居者・家族の意向を確認するための書類や手順にまだ不十分な点があることを、今回の経験で気付いたとのこと、順次、整えていくことを期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者の尊厳を守るための職員の言動、個人情報保護、ともに、職員指導を徹底して行っている。常に職員が付き添う必要のある方がおられ、通常は事務室で行う申し込みを、その方の傍らで行う必要が生じる時があり、今回の自己評価を通して、その行為も、入居者のプライバシー保護に触れるのではと感じ、それを契機に、その他のケアについても見直しを行ったとのこと。 | ○ | 自己評価を契機に行ったケアの見直しの一つとして、見守りの視点から食堂兼居間で行っていた記録を、事務室で書くことを試みているとのこと。今後も、入居者のプライバシーを保護するとはどういうことなのか、具体的な形に置きなおしての検討・試行を続けていって欲しい。 |
| 24 | 54 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床・就寝、食事、入浴等、ある程度のリズムを保ちながらも、入居者に強要することにならないよう、気をつけている。一つ一つの行為に時間がかかる方もおられるが、入居者のペースに合わせて、“待つ”ケアを行っている。入居者が、予定外のことを希望された時も、極力対応させていただき、一日一日、その方に満足して過ごしていただけるよう努めている。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 栄養士による献立・食材配達・調理師による調理まで一連して専門の業者に委託しているが、特定の調理師が派遣されており、「入居者と一緒にする」ことに対する理解を得ているので、下ごしらえや食器拭き等に入居者が参加できている。週2回のホームでの調理日には、献立作成・買出し・味見等もしていただいている。ホームで採れた野菜を出したり、郷土食を採り入れたり、外食にお連れする等、入居者に美味しく食べていただく工夫をしている。 | | |
| 26 | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週3回、午後の入浴としているが、希望があれば、可能な範囲で対応させていただいている。入っている時間、湯温、シャンプー等も各入居者の好みに合わせている。拒否をされる方もおられるが、入浴順を工夫したり、“入浴券”を作ったり(お金を持っていないことを気にされていたため)と、気持ちよく入っていただく取り組みをしている。 | ○ | ホームとしては、「昼間の入浴は不自然」との思いがあり、これまでも、人員体制を含め、夜間入浴の検討を行ってきたが、まだ実施には至っていないとのこと。現在、具体的に入居者から夜間入浴の希望は出していないが、入浴をお勧めした時、「こんな早い時間から…」という声が聞かれることから、諦めることなく、検討を続けていきたいとのこと。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | うどんや煮豆作りといった調理、座布団作り等の裁縫、畑仕事等、入居者の得意なことを活かして、ホーム活動に参加いただいている。作業が難しい方も、他入居者への心配り、居間でのムードメーカーという役割を担ってくださっている。以前、趣味でされていたちぎり絵を、他入居者に教えてくださった方もおられた。 | ○ | これまで、入居者ごとの楽しみの支援を行ってきたが、今年、「センター方式」を導入したことで、これまで知らなかったことがいくつも把握され、新たな取り組みの可能性が見え、順次、試みをしていきたいとのこと。 |
| 28 | 63 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩や買い物といった日常的な外出の他、季節ごとのドライブ等もしている。入居者が保護者としてよく行かれていた地元の保育園にお連れしたり、馴染みの理・美容室にお連れしたりしている。入居前に習慣とされていた月命日のお寺参りも継続していただいている。普段、あまり要望を言われない入居者が「自宅に帰りたい」とおっしゃられたので、家族に協力を依頼し、現在、日程調整の段階まで進んでいる。 | ○ | 現在、外出が、「皆で一緒に行く」というのが主になっているため、入居者の好みや習慣の継続の視点で、個人的な外出や、思い出の場所の訪問等の実現に取り組んでいきたいとのこと。その際は、是非、家族もご一緒いただきたいと考えているとのこと。家族への声かけ・協力依頼も引き続き行っていきたいということで、入居者が喜ばれる外出が増えることが期待される。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 敷地出入口、玄関ともに、夜間は戸締りするが、日中は施錠していない。玄関には、小鳥・犬の鳴き声がするセンサーをつけている(音量にも配慮)。歩行の姿勢から、センサーが反応せず、一人での外出が危ぶまれる方がおられ、落ち着かれない様子がみられた時は、短時間、玄関を施錠することもあるが、職員の見守りが少し手薄になる早朝・夕方といった時間帯に限られている。実際、近所から連絡をいただいたこともあり、地域での見守りの協力もいただいている。 | | |
| 30 | 73 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の協力も得て、入居者参加のもと、避難訓練を定期的に行っている。夜間想定も行った。訓練を通して、ホームからの避難後の見守り(職員が他入居者の誘導を行っている際)が必要であることが把握されたため、地域の方に具体的に協力いただきたいことをお伝えし、訓練にも参加いただいている。災害に備えた備蓄はまだ行っていない。 | ○ | これまでは、火災を想定しての訓練を行ってきたので、今後は、地震や風水害時の設定での訓練を行いたいとのこと。災害備蓄についても整えていきたいとのこと。何が必要か職員とも話し合いをし、順次、準備して行って欲しい。非常食・飲料水については、賞味期限の確認等、管理方法についてもルールを定めておくと良いと思われる。 |
| 31 | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士の作成した献立に従っており、カロリー・栄養バランスに配慮された食事を提供している。週2日のホーム調理日の献立も、カロリーを考えて作っている。食事量・飲水量は、把握・記録している。食材や味付け、盛り付けを、各入居者の嗜好に合わせる他、食事・水分の摂取量が少なめになっている方には、特に、食べ易いもの、好きなものを準備し、少しでも召し上がっていただけるようにしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 光の強さ、気温、湿度、音等、入居者にとって快適な空間となるよう気を配っているが、刺激から遠ざけすぎることにならないよう、自然な環境を作るようにしている。季節ごとに飾りつけもし、ホーム内でも季節を感じていただけるように努めている。 | | |
| 33 | 85 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームでベッドは準備しているが、入居に際し、馴染みの物をお持ちいただくよう働きかけており、仏壇、思い出の品、装飾品、過去の生活習慣に沿った家具等、自由に持ち込んでいただいている。居室扉横の表示は、生活歴も踏まえ、その方が好まれるであろう絵にしている。 | | |